

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター北遠中央
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 7年 8月 1日 (金) 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	山香ふれあいセンター 会議室
3 参加者	19名（委員6名、事務局6名、関係機関7名）
4 協議の内容	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 浜松市高齢者福祉課 課長補佐</p> <p>3 地区部会の取り組みについて</p> <p>①令和6年度第3回会議録の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ○佐久間地区 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動についての座談会の実施 ・ご近所サポーター養成講座の実施 ・移動販売について ○水窪地区 <ul style="list-style-type: none"> ・水窪中学での認知症サポーター養成講座の実施 ○龍山地区 <ul style="list-style-type: none"> ・たつやマルシェの実施 ○意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・地域をよくするための活動について、情報共有 <p>②各地区部会の活動状況の報告</p> <p>【佐久間地区】7月3日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最近の「地域の見守り」について <ul style="list-style-type: none"> ・何か相談があった際に、「地域包括支援センターや保健師に相談したら」と声掛けしても、「そこまではやらなくてもいいよ」と諦めてしまう方がいる。 ・お一人様が多くなってきている中で、「地域に出向く場所がないよ」という声や、参加者の高齢化、機会の減少、交通手段の確保が難しい等の声が聞かれた。また、状況によって地域包括支援センターが連携し、家族支援を行っているケースがあった。 ・お食事サロンの参加者が減ってきているということに加え、ボランティア活動者も減少している。声をかけても躊躇してしまうという現状がある。 ・自治会の状況に合わせた形での「見守り体制」の普及が重要ではないかとの意見があった。 ○さくま安心だ和いネットについて <ul style="list-style-type: none"> ・「さくま安心だ和いネット」という形で実施することは、重要である。 ・「さくま安心だ和いネット」が5年を経過するにあたり、再度会員に呼びかけをして、地域を自分たちで守ってい

く意識を高めていくことが必要。

- ・協力事業所に、協議体の内容が伝わっていない。
- ・お店をやめている場合もあるため、協力事業所の確認。
- ・事業所へのインタビューも良い。
- ・「だ和いネット連絡会」を地区部会の2回目に実施予定。

【水窪地区】6月16日（月）

○目標について

- ・資料に書かれているとおり、人の育成や拡充を目指す。60代の人材育成、仲間を増やすのが重要だと思う。

○まめだかいの目指す地域像について

- ・発足当初の地域像について、もう一度考えてみようという意見が出た。

○ささえあいポイント事業登録研修会について

- ・担い手の確保という点から実施。
- ・7/19（土）15時～の開催とし、開催日時を工夫した。
- ・参加者14名。同日登録4名。内容が今ひとつ分からないとの意見あり。水窪事務所に補足しながら対応する。

○水窪あんしんネットワーク連絡会について

- ・開催しても、参加者が少ない。
- ・新たな事業所の加入も必要である。
- ・市が実施する「高齢者にやさしいお店認証事業」をもっと一緒に周知したら良いのではないか。
- ・開催方法の検討をする。
- ・同報無線が使えない。地区内の情報が伝えられない。市に対して活用をお願いしたが、回答がない。
- ・訪問看護ステーション サテライト水窪が開設された。

【龍山地区】5月16日（金）

○地域で気になること

- ・高齢化やひとり暮らしの増加、回覧ではなく各戸配布が望まれている。（組長が1件ずつ回って配付している地区もある。）
- ・免許の返納が増えている。その人達から「移動手段がなくサロンへ出ていけない。」という課題が出ている。

○たつやマルシェについて

- ・課題があるが、少しずつ成長している。
- ・見守り、移動販売等の継続が必要である。
- ・6月15日に1回目を開催した。来る方は毎回同じで、周知の方法が課題である。喫茶コーナーで、みんなができるボードゲーム等があると良い。当日は、天気心配であったが、開催できた。
- ・次回10月に実施予定。

4 「いどばたサミット」について

○これまでの実施について

- ・事務局より開催経緯の確認や、これまでの振り返りを行った。

	<p>○今年度の「いどばたサミット」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人を活動に巻き込むことが大事である。 ・中学生への働きかけもよい。 ・地域で、若い子と接する機会がない。 ・みさくぼ祭など良い機会にはなると思う。 ・若い世代が役員に入っているとよい。 ・男性も役員になると出てくる。 ・懇親会も大事である。 ・女性が入るといい。 ・移住してきた人にも、参加してもらってはどうか。 ・飯田市の事例（住民がやっている姿勢を見せると、市が応援してくれる） ・地域のサロンは、それぞれの地域ごとでやり方が異なる。 ・施設の近くに住んでいても、施設の内容がわからない。知りたくなって施設が実施するサロンに行くようになった。 ・サミット開催のテーマとして、男性の参加についてはどうか。男性は教えてもらったり、何かを知るという事、また目新しいものに興味を持つと思う。 ・水窪は、若い世代も頑張っている。その若い世代がまめだかい（協議体）を知っているかという、知らないと思う。山里いきいき応援隊も地域のために活動しているが、線としてつながっていない。生活支援体制づくりをみんなに知ってもらうというテーマもいいのでは。それぞれ活動していることがつながっていない。 ・水窪で「ローカルサミット」というのをやっている。企業等も参加している。若い人も参加していたが、だんだん参加してこなくなる。会議というとな固くなるのか。若い人の意見も聞きたいが、できていない。 <p>⇒テーマ： 協議体の活動を、地域住民にどうやって知ってもらうか 開催時期： 11月頃 となった。</p> <p>5 事務連絡 事務局からのお知らせ</p> <p>6 閉会</p>
<p>5 今後の見通し・必要な対応</p>	<p>「人材育成」、「あんしんネットワーク連絡会」、「住民同士の出会える場」などのキーワードがあがっている中で、地区部会の抱えている課題を地域に問題提議し、住民の方と一緒に取り組み方を考えていく。</p>